



京商ラジコンサーキット
攻略ライン

ahead
homme
ADVENTURE

#3 ■ トレーニング
文・竹内俊介 写真・五十嵐豊

今回の走り込みの課題は、ドライビングスキルの向上と、集中力の持続だ。八月十日、炎天下の京商サーキットで走り込みを強行した。精神力を鍛えるためには、過酷な条件ほどいい。マシンの準備をしているだけでも汗が滴り落ちてくる。

エンジンを始動し走行開始。なぜか前回よりもマシンが滑る。タイヤがグリップしない。「朝はコースコンディションが良くないのでグリップは悪いですよ。実車のレースと同じで、走り込んで路面ができたときにグリップが良くなるんです。だから午後は走りやすくなるでしょう。滑りやすい方が練習にもなるから、タイヤはこのままいきましょう」と岩崎さん。さらに、本番のレースでは路面のグリップ状況を予測し、タイヤやセッティングを決めるそうだ。朝の練習走行で、グリップが悪いかとセッティングを合わせてしまうと失敗するらしい。なんとも奥が深い世界である。

さて、一通り慣熟走行が終了したところで、岩崎さんから厳しい指摘を受けた。そこで、まずBとI区間における一連の連携操作のマスターと全域において先を

一、ステアリングとスロットルの連携操作ができていない。二、全ての操作に中間領域がないしオンかオフになっている。三、ステアリングの切り始めと戻しが遅いため、各操作が雑になりクルマが蛇行する。四、クルマだけを見て先を見ない(三)の原因でもある。五、ブレーキを使っていない。これをわかり易くするためにコースを九つのセクションに切り分けてみた。BとI区間においてステアリングとスロットルの連携操作ができていない(二)。ホームストレートA区間とバックストレートB区間を除き、ほぼ全域で全ての操作がオンかオフ(二)。CからG区間にかけてのインフィードセクションで、ステアリング操作の遅れが出ている(三)。コース図上の各ブレーキングポイントで全くブレーキを使っていない(五)。このため、コーナーでオーバーステアする。全區間でクルマだけを見ていて先をみていないため(四)、全ての操作のタイムシグが遅れる。要するに、課題が山積みなわけである。

以上、本日の出費、ホイールセット、サーキット使用料で、三、四四〇円。度重なるクラッシュで「俺のランポ」のボディは変形した。シャシーにも歪みが生じたようだ。

見るドライビングを心掛けた。特に、先を見たドライビングを心掛けると、インフィードセクションも以前より楽に走れることに気づいた。しかし、時として「俺のランポ」を見失い派手なクラッシュを演じてしまう。そしてホイールを破損。岩崎さんの薦めで、グリップの高いセミスリックタイヤに交換した。走り出して驚いたのが、グリップ力の高さだ。コレは走りやすいと思わず顔がほころぶ。コーナーリング中のタイヤのスキル音も実車に近いものになるから不思議だ。

一、ステアリングとスロットルの連携操作ができていない。二、全ての操作に中間領域がないしオンかオフになっている。三、ステアリングの切り始めと戻しが遅いため、各操作が雑になりクルマが蛇行する。四、クルマだけを見て先を見ない(三)の原因でもある。五、ブレーキを使っていない。これをわかり易くするためにコースを九つのセクションに切り分けてみた。BとI区間においてステアリングとスロットルの連携操作ができていない(二)。ホームストレートA区間とバックストレートB区間を除き、ほぼ全域で全ての操作がオンかオフ(二)。CからG区間にかけてのインフィードセクションで、ステアリング操作の遅れが出ている(三)。コース図上の各ブレーキングポイントで全くブレーキを使っていない(五)。このため、コーナーでオーバーステアする。全區間でクルマだけを見ていて先をみていないため(四)、全ての操作のタイムシグが遅れる。要するに、課題が山積みなわけである。

見るドライビングを心掛けた。特に、先を見たドライビングを心掛けると、インフィードセクションも以前より楽に走れることに気づいた。しかし、時として「俺のランポ」を見失い派手なクラッシュを演じてしまう。そしてホイールを破損。岩崎さんの薦めで、グリップの高いセミスリックタイヤに交換した。走り出して驚いたのが、グリップ力の高さだ。コレは走りやすいと思わず顔がほころぶ。コーナーリング中のタイヤのスキル音も実車に近いものになるから不思議だ。

見るドライビングを心掛けた。特に、先を見たドライビングを心掛けると、インフィードセクションも以前より楽に走れることに気づいた。しかし、時として「俺のランポ」を見失い派手なクラッシュを演じてしまう。そしてホイールを破損。岩崎さんの薦めで、グリップの高いセミスリックタイヤに交換した。走り出して驚いたのが、グリップ力の高さだ。コレは走りやすいと思わず顔がほころぶ。コーナーリング中のタイヤのスキル音も実車に近いものになるから不思議だ。



まるで24時間レースを走ったかのように汚れたボディ。これもまたカッコいい。意外に白いホイールも似合う。



左が今回、交換したセミスリックタイヤ。溝付きだが、ソフトコンパウンド仕様なのでグリップはかなり高い。



ボディカウルを外した状態での後ろ姿。交換したセミスリックタイヤは実車同様に溝の向きで回転方向がある。



度重なるクラッシュでシャシーが歪んだ。さらにサスペンションにもダメージを受け、アームがスムーズに動かない...